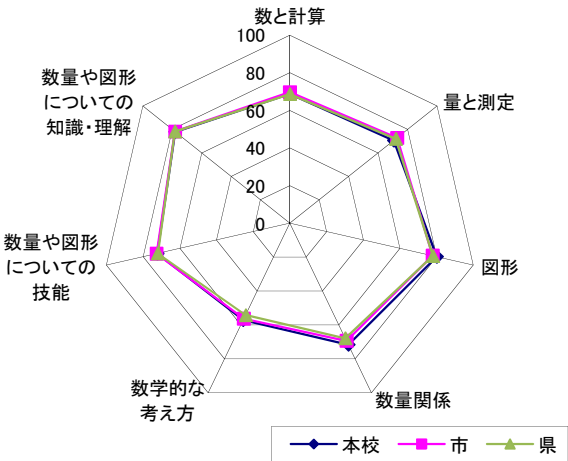


宇都宮市立海道小学校第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.8	69.6	68.7
	量と測定	70.6	72.8	72
	図形	80	77.8	78
	数量関係	71.7	69.4	67.8
観点	数学的な考え方	57.1	56.3	54.2
	数量や図形についての技能	72.3	72.7	72
	数量や図形についての知識・理解	78	78.2	78.1



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は68.8%で、県平均より0.1ポイント高い。 ⇒○特に、同分母の真分数+真分数=真分数の計算ができるの設問では100%の正答率で県平均より10.4ポイント上回った。家庭学習の成果が見られる。 ⇒●2位数÷1位数=1位数(余りあり)の計算ができるの設問では正答率が県平均より9.3ポイント低い。	・余りのある割り算の設問につまづきが見られる。プリントなどを用意し、家庭学習で余りのある割り算の問題を継続して行わせ、定着を図る。 ・今後も、朝の学習や家庭学習でドリルや学習プリントを活用して反復練習を行っていく。
量と測定	●領域の平均正答率は70.6%で、県平均より1.4ポイント低い。 ⇒○特に、重さについての設問の正答率が県平均を少し上回った。 ⇒●長さのkmとmの単位の関係についての設問の正答率が80.0%で県平均を8.9ポイント下回り、課題が見られた。	・授業の中で単位の換算を取り上げて指導する。少人数での指導やかがやきルームでの指導と連携を取り合い、個に応じた指導を継続して行っていく。また、長さの単位だけではなく、重さや面積など生活に使われている単位について機会ごとに取り上げ、一層の定着を図る。
図形	○領域の平均正答率は80.0%で、県平均より2.0ポイント高い。 ⇒○特に、球の半径と直径の関係の設問では、正答率が80%と県平均より13.8ポイント上回った。デジタル教科書等を活用した成果が見られる。 ⇒●正三角形を作図するについて設問の正答率が70.0%と県平均よりも4.2ポイント下回った。	・プリントやドリルを活用し、正三角形の作図については、コンパスや定規の使い方に慣れさせ、正確に作図ができるようにさせる。 ・ICTや少人数指導を利用し、視覚的に図形を捉えさせ、個々の理解度を高める。
数量関係	○領域の平均正答率は71.7%で、県平均より3.9ポイント高い。 ⇒○提示された条件に該当する項目を示す設問では、正答率が93.3%と県平均より12.6ポイント高い。 ⇒●ぼうグラフから冊数の違いを読み取る設問で課題が見られ、その正答率が66.7%と県平均より13.4ポイント下回った。	・日常生活の中でグラフを読み取る力や資料の特徴を読み取る力を意図的に取り上げるによりそれらの定着化を図る。 ・グラフを読み、説明する活動を他の教科の授業や日常生活の中で行うことで理解を深める。 ・プリントやドリルで反復練習させ、数量関係の問題への対応力を育てる。